



路外駐車場編



1

路外駐車場障がい者用駐車区画

●基本的考え方●

路外駐車場には、障がい者用駐車区画を併設する必要がある。また、障がい者自身が運転する場合と、同乗する場合とがあり、いずれの場合でも安全に支障なく利用できるような構造とする必要がある。

整備基準（規則で定めた基準）

- (1) 路外駐車場には、障がい者が円滑に利用することができる駐車区画（以下「路外駐車場障がい者用駐車区画」という。）を1以上設けなければならない。ただし、専ら大型自動二輪車及び普通自動二輪車（いずれも側車付きのものを除く。）の駐車のための駐車場については、この限りでない。
- (2) 路外駐車場障がい者用駐車区画は、次に掲げるものでなければならない。
 - ア 幅は350cm以上、奥行きは600cm以上とすること。
 - イ 路外駐車場障がい者用駐車区画又はその付近に、路外駐車場障がい者用駐車区画の表示をするとともに、当該駐車施設への経路について誘導標示を行うこと。
 - ウ 2の項〔路外駐車場移動等円滑化経路〕(2)に定める経路の長さができるだけ短くなる位置に設けること。

■整備基準の解説

ここでは、建築物に附属せず単独で設けられている駐車場を対象としている。

→【図 2.1】参照

(1) 台数

- 路外駐車場障がい者用駐車区画を1以上設ける。

(2) ア 幅

- 路外駐車場障がい者用駐車区画は、自動車のドアを全開した状態で車椅子から自動車へ容易に乗降できる幅を確保する。整備基準で規定している幅は、普通車用駐車スペースに、車椅子使用者が転回でき、介助者が横に付き添えるスペース（幅140cm以上）を見込んだものである。

イ 標示

- 路外駐車場障がい者用駐車区画は、一般用駐車スペースと区分するため、駐車スペース床面に「国際シンボルマーク」を、乗降スペース床面に斜線をそれぞれ塗装表示し、付近に標識を設けることとし、これらは運転席からも判別できる大きさとする。（路外駐車場障がい者用駐車区画付近に設置する標識は、障がい者の通行や後部側ドアからの乗降に考慮して、利用者の支障とならない位置に設置する。）
- 路外駐車場の入口には、路外駐車場障がい者用駐車区画が設置されていることが分かるように標識を設け、駐車場の入口から路外駐車場障がい者用駐車区画に至るまでの誘導用の標識を設ける。

→【図 2.2】参照

ウ 位置

- 路外駐車場の出入口にできるだけ近い位置に、路外駐車場障がい者用駐車区画を設ける。

その他の注意事項	
<ul style="list-style-type: none"> ●発券所等は、曲がり角や傾斜部分に設けないように計画する。 ●機械式駐車場など特殊な装置を用いる路外駐車場にあっては、機械式駐車場とは別に路外駐車場障がい者用駐車区画を設ける。 ●機械式駐車区画などにおいては、障がい者が敷地内で乗降できるスペースの確保に配慮する。 	

■望ましい整備

設置数	
◎路外駐車場障がい者用駐車区画は 50 台ごとに 1 以上設ける。	
スペース	
◎車体スペースの両側にはそれぞれ幅 140cm 以上の乗降用スペースを設ける。	
◎路外駐車場障がい者用駐車区画を複数台分設ける場合は、2 台以上のスペースを並べて設ける。	
◎バンタイプの車椅子使用者対応車両では、後部側ドアの開閉が通常であり、幅員とともに奥行きについても配慮する。	
その他の注意事項	
◎障がい者だけでなく、妊産婦、乳幼児を連れた者、歩行が困難な高齢者又は療養中若しくはリハビリ中の者が安全かつ円滑に駐車及び乗降できる「思いやり駐車区画」を、建築物の出入口にできるだけ近い位置に路外駐車場障がい者用駐車区画と同数設ける。	
→思いやり駐車区画は、幅 270～300cm 程度、長さ 550cm 程度とし、隣接の駐車スペースとの間隔を 80cm 程度確保して白線表示する。	
◎路外駐車場障がい者用駐車区画から路外駐車場出入口への通路に屋根又はひさしを設ける。	
◎見通しの悪い箇所には、ミラーを設ける。	

→【図 2.3】参照

2

路外駐車場移動等円滑化経路

●基本的考え方●

高齢者、障がい者等が円滑に利用することができるように、路外駐車場障がい者用駐車区画から道等までの経路のうち1以上の経路を、段差がなく通行しやすい幅とした経路とする。

整備基準（規則で定めた基準）

- (1) 路外駐車場障がい者用駐車区画から道等までの経路のうち1以上を、高齢者、障がい者をはじめとする全ての人が円滑に利用できる経路（以下「路外駐車場移動等円滑化経路」という。）にしなければならない。
- (2) 路外駐車場移動等円滑化経路は、次に掲げるものでなければならない。
 - ア 路外駐車場移動等円滑化経路上に段を設けないこと。ただし、傾斜路を併設する場合は、この限りでない。
 - イ 路外駐車場移動等円滑化経路を構成する出入口の幅は、85cm以上とすること。
 - ウ 路外駐車場移動等円滑化経路を構成する通路は、次に掲げるものであること。
 - (ア) 幅は、120cm以上とすること。
 - (イ) 50m以内ごとに車椅子使用者の転回に支障がない場所を設けること。
 - エ 路外駐車場移動等円滑化経路を構成する傾斜路（段に代わり、又はこれに併設するものに限る。）は、次に掲げるものであること。
 - (ア) 幅は、段に代わるものにあつては120cm以上、段に併設するものにあつては90cm以上とすること。
 - (イ) 勾配は、1/20以下であること。ただし、高さが、16cm以下のものにあつては1/8以下であること。
 - (ウ) 高さが、75cmを超えるものにあつては、高さ75cm以内ごとに踏幅が150cm以上の踊り場を設けること。
 - (エ) 手すりを連続して設けること。

■整備基準の解説

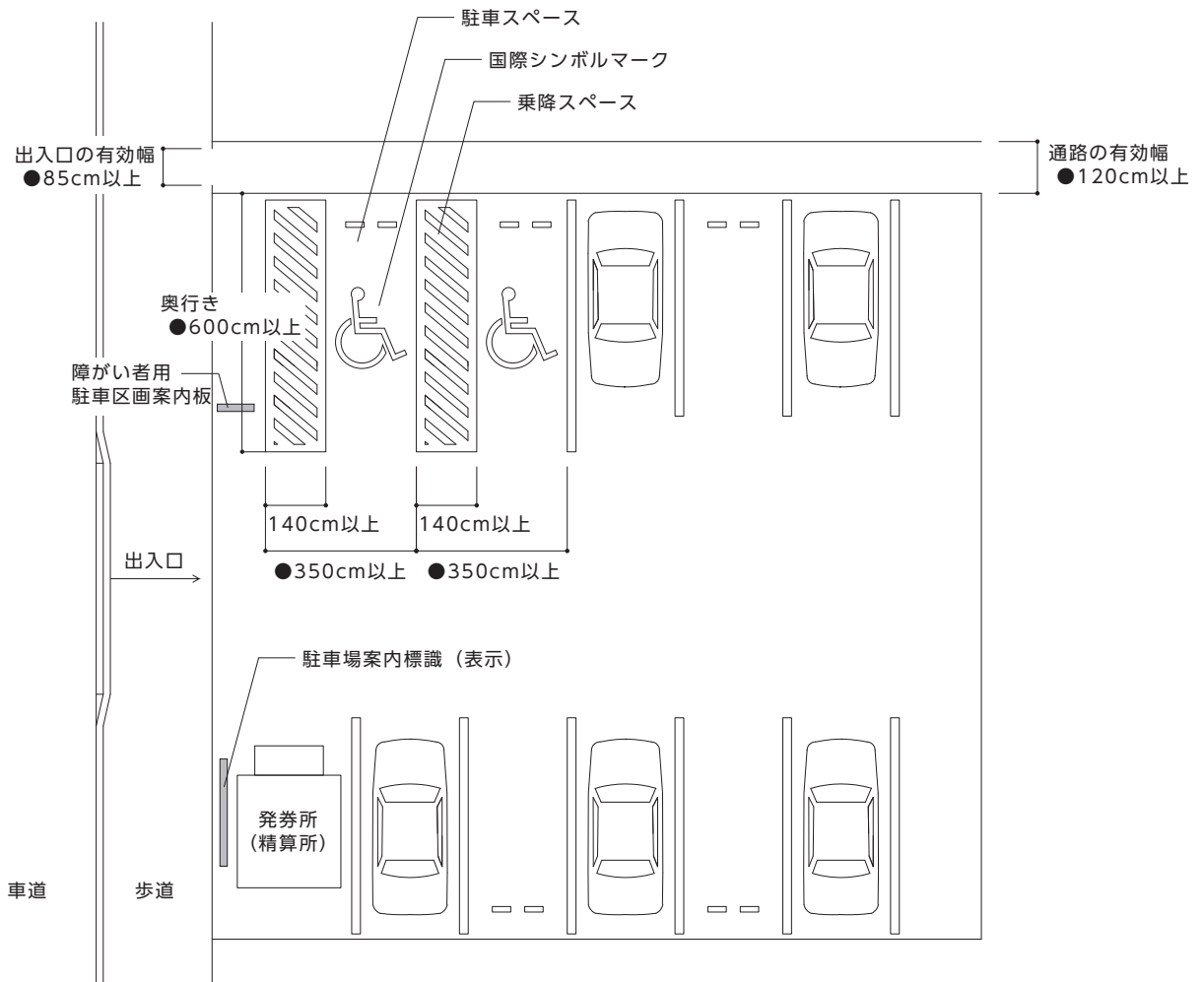
有効幅	<ul style="list-style-type: none"> ●路外駐車場の出入口の有効幅は、85cm以上とする。 ●路外駐車場障がい者用駐車区画から路外駐車場の出入口までの通路の有効幅は、車椅子使用者と人が最低限すれ違ふことができ、松葉杖使用者が円滑に通行できる120cm以上を確保することが必要である。 	→【図 2.1】参照
通路面	<ul style="list-style-type: none"> ●雨掛りによるぬれた状態でも滑りにくい仕上げ、材料を選択する。 ●アプローチの通路面には、原則として排水溝などは設けない。やむを得ず設ける場合は、溝蓋を設け、仕上げ、溝の間隔等は車椅子使用者、杖使用者等の通行に支障のないものとする。車椅子のキャスターや杖の落ち込みは、動けなくなるだけでなく、転倒の危険もある。 	
段差の禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●路外駐車場移動等円滑化経路上には、階段や段差を設けないことが原則となる。やむを得ず段差が生じる場合には、整備基準を満たした傾斜路を必ず併設する必要がある。 	

■望ましい整備

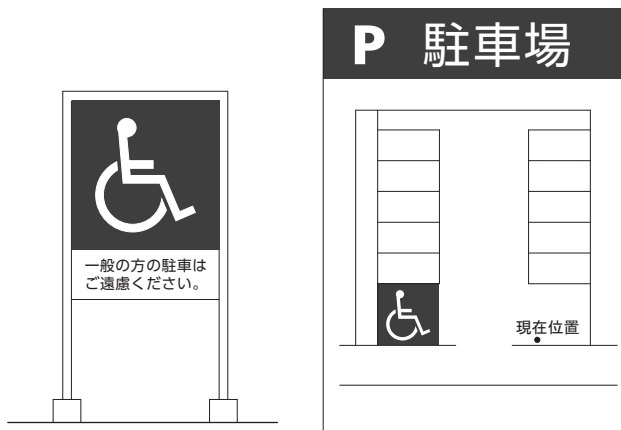
出入口	◎路外駐車場の出入口の有効幅は90cm以上とする。
通路面	◎路外駐車場移動等円滑化経路の有効幅は140cm以上とする。
傾斜路	◎建築物編「I建築物（共同住宅等以外）」の〔5 階段に代わり、又はこれに併設する傾斜路〕の望ましい基準を準用する。

《 参 考 図 》

【図2.1】 駐車場の整備例



【図2.2】 標示・標識の例



【図2.3】 思いやり駐車区画の整備例

